

事例研究報告

**特別支援学校中学部生徒が、作業
学習の完了時、教員に報告する
ときの姿勢や態度のスキルを教える**

生徒の実態

- ・特別支援学校中学部男子生徒 知的障がい
- ・よくしゃべり、黙っていることが苦手。教員に質問するが、回答をあまり聞いていないことがよくある。
- ・新しい学習や行事(式典, 遠足, 運動会等)などが苦手(不安)で、さらに不要な発語が増える。
- ・ストレスがかかっているときに暴言や不適切な行動(ものを投げる, 扉や壁を蹴る等)が出る。注意された後や疲れた後などにも多い。
- ・立位姿勢は、上体が前屈みになり、腕や肩に力が入りすぎる。そのため疲れやすく、不適切な言動につながりやすい。
- ・小学3, 4年程度の漢字の読み書きができる。作文は、助詞が抜けやすい。

生徒の実態

<作業学習での実態>

- ・陶芸作業で、型抜き(1セット10個)や板作り(1セット5個)で、1セットにつき5円稼ぐことができ、他の作業学習で貯めたお金も合計して、実際に近くのコンビニで好きなお菓子などの買い物をして食べる、という「報酬システム」を採用している。これにより、作業に集中して取り組めるようになっている。
- ・ただし、ストレスがかからないように、不良品が出ても作り直しはせず、そのまま出来高としてカウントしプラス評価していた。今回ステップアップし、作り直しを受け入れることができるようになるための取り組みを行おうと考えた。

教員の考え

「修正を指示した時に，受け入れて作業を遂行できるようにしてほしい」



アドバイザーからの助言

「良い行動」を増やす

課題を設定し、指導を始めましょう。



指導目標の見直し

- ・9月より、不良品が出たときにやり直しを指示した場合、不適切な言動が出るかどうかについて記録を取ったが、不適切な言動は少なかった。
- ・「作業学習中はとりたてての行動問題はないと思われるので、もっと良い行動を増やす課題を設定してはどうか」とのアドバイスを受け、「作業完了時の報告が正しい姿勢や態度でできる」という目標を設定しました。

【指導場面】 陶芸作業の授業

【般化場面】 紙すき作業の授業

【教材】 報告場所の壁に貼った報告の仕方の見本イラスト、イラスト入りチェックシート、報告のときに立つ位置を示す床上の色つきテープ

記録方法と記録

指導の成果を確認するために、標的行動がどのくらいできるようになったかを記録する方法を決めました。

そして指導を始める前に、どのくらい標的行動が実行されているかを、記録しました(これを「ベースライン」の測定と言います)。

- ・ 1セット毎の作業完了時の報告の姿勢・態度について、5つ(6つ)のチェック項目を設け、項目それぞれについてできているとき○、できていないとき×、あやふやなとき△の記号をシートに記入する。
- ・ 1回の報告につき、○が80%以上となる状態が5回以上続いた場合を達成とする。

般化場面での記録方法

＜般化指導1＞（12/8, 12/15前半）

- 別の教員が、紙すき作業の授業で指導。
- ＜指導2＞と同じ手続きで指導。

＜般化指導2＞（12/15後半, 12/22）

- 別の教員が、紙すき作業の授業で指導。
- ＜指導3＞と同じ手続きで指導。

指導1: チェック項目の導入とモデリング

<ベースライン> (10/1, 10/8)

- 報告場所の壁に報告の仕方の見本イラストを貼っておく。
- 報告場所の床に報告者の位置を示す色付きテープを貼っておく。
- 報告の姿勢・態度についての現状を, そのまま記録する(5つのチェック項目について)。

指導1:チェック項目の導入とモデリング

<指導1> (10/15, 10/22, 11/5)

- 報告の仕方について、教員がモデリングを
する(10/15のみ)。
- 1セット毎の作業完了時の報告の姿勢・態度に
ついて、5つのチェック項目を設け、項目それ
ぞれについてできているとき○、できていない
とき×、あやふやなとき△の記号をシートに記
入する。

指導2:チェック項目の修正と自己チェック

<指導2> (11/26, 12/3)

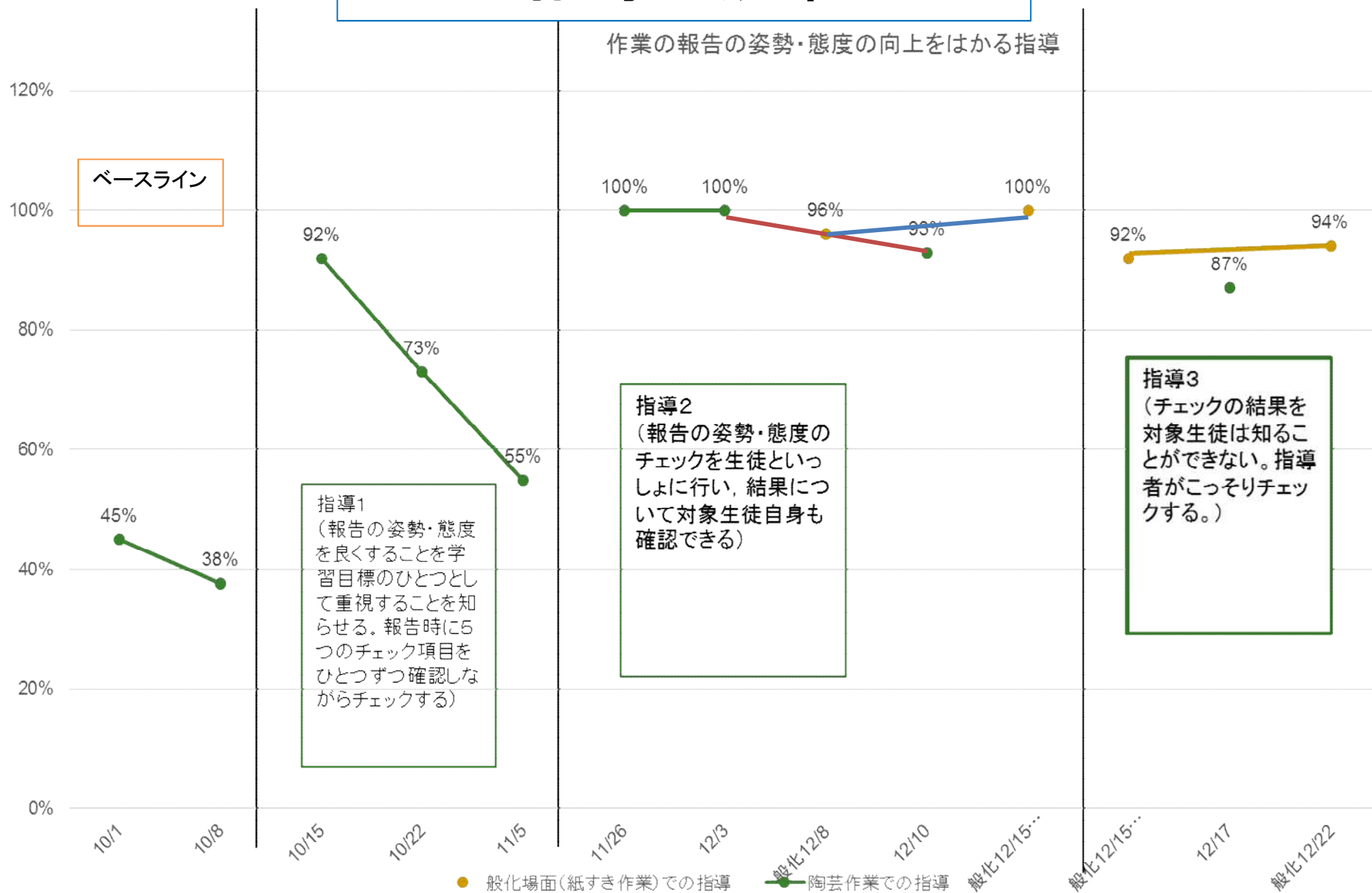
- チェックする行動をさらに分け, 6項目とした。
- 行動を自分で修正できるように, 本人にもチェックの結果を項目ごとに見せておこなう (シートも視覚的にわかりやすいイラスト付きのチェックシートにする)。
- チェック項目ごとに, できていれば「すばらしい」などと賞賛する。

指導3：教員によるチェックと見本のフェイドアウト

<指導3> (12/10, 12/17)

- チェックシートでのチェックを教員だけが行う方法に切り替える(教員は無言でチェックを行い、本人はチェックの結果を知ることはい)。)
- 報告場所の壁に貼ってあった報告の仕方の見本イラストをはずしておく。

指導の成果



結果1: 作業完了時の報告の姿勢・態度の達成率

指導の成果

- 指導前は40%前後の水準だったが、
〈指導1〉で90%台まで上がり、その後50%
台に下がった。
- 本人にもチェック結果がわかる〈指導2〉の段階
では、100%~90%台の高い水準となった。
- 次の本人にチェック結果を見せない方法で行う
〈指導3〉の段階ではやや下がったが、80%後
半の水準を維持できていた。同時期に行った〈般
化指導(1, 2)〉でも、やや高めの水準でよく
似た傾向を示していた。

ここが成功のポイント



○報告の姿勢・態度のどの点が良いか悪いかを本人自身でわかり、行動の自己修正ができるフィードバックの方法（指導2）は有効であった。

○賞賛されることが好子となり、行動改善につながっている。